

村上僚さん（博士後期課程3年）が平成27年度日本生化学会関東支部例会 / 第56回新潟生化学懇話会で若手奨励賞を受賞しました

平成27年6月20日に、新潟日報メディアシップ（新潟市中央区）で行われた平成27年度日本生化学会関東支部例会 / 第56回新潟生化学懇話会において、大学院自然科学研究科生命・食料科学専攻基礎生物学コース・博士後期課程3年の村上僚さんの研究発表が若手奨励賞を受賞しました。

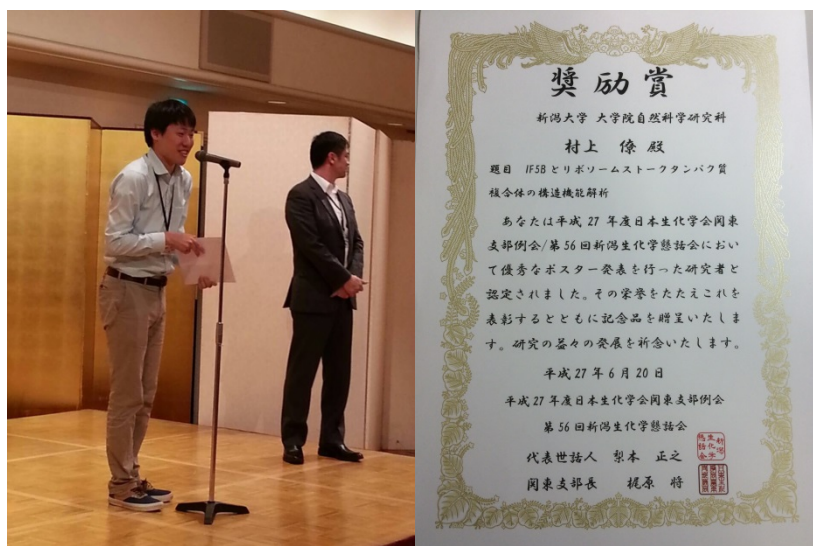
生体内において、タンパク質合成の開始には、リボソームと呼ばれる巨大分子のサブユニットが会合しなければなりません。本研究は、その分子機構を明らかにするため、タンパク質合成開始因子IF5Bとリボソームストロークタンパク質の複合体のX線結晶構造解析及び出芽酵母を用いた分子遺伝学的実験をカンザス州立大学の浅野桂教授との共同研究で行いました。その成果として、IF5Bとリボソームストロークタンパク質の結合様式が原子分解能で明らかになり、その相互作用がタンパク質合成開始段階におけるリボソームサブユニット会合反応に重要であることが分かりました。

発表者：村上僚（新潟大学大学院自然科学研究科・博士後期課程3年）、

（指導教員：伊東 孝祐 助教、内海 利男 教授）

演題名：IF5Bとリボソームストロークタンパク質複合体の構造機能解析

リンク：<http://www.nupals.ac.jp/biochem/index.html>



左図 表彰式の様子

右図 受賞した賞状